

1 在宅チーム医療を担う人材の育成

- 在宅チーム医療の推進のための研修(在宅医療を担う職能別の研修)
- 多職種協働による在宅医療を担う人材育成(多職種協働によるサービス調整等の研修)

2 実施拠点となる基盤の整備

今後、医療計画に盛り込むことを検討している「在宅医療体制構築に関する指針(案)」に沿って、各地域で在宅医療(薬局も含む)、栄養ケア、介護の連携を図り、在宅医療・介護を推進。

- 在宅医療連携拠点事業(多職種協働による在宅医療連携体制の推進)
- 在宅医療提供拠点薬局整備事業(地域の在宅医療を提供する拠点薬局の整備)
- 栄養ケア活動支援整備事業(関係機関と連携した栄養ケア活動を行う取組の促進)
- 在宅サービス拠点の充実(複合型サービス事業所、定期巡回・随時対応サービス及び訪問看護ステーションの普及)
- 低所得高齢者の住まい対策

3 個別の疾患等に対応したサービスの充実・支援

(1) サービスの充実・支援に向けた取組

- 国立高度専門医療研究センターを中心とした在宅医療推進のための研究事業
(疾患の特性に応じた在宅医療の提供体制のあり方を含めた研究推進)
- 在宅医療推進のための医療機器承認促進事業(未承認医療機器に関するニーズ調査等)
- 在宅医療推進のための看護業務の安全性等検証事業(在宅医療分野における看護業務の安全性を検証)

(2) 個別の疾患等に対応した取組

- 在宅介護者への歯科口腔保健推進事業(歯科口腔保健の普及啓発のための口腔保健支援センター整備)
- 在宅緩和ケア地域連携事業(がん患者に対する地域連携における在宅緩和ケアの推進)
- 難病患者の在宅医療・在宅介護の充実・強化事業(ALS等の難病患者への包括的支援体制)
- HIV感染症・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業(エイズ患者等の在宅療養環境整備)
- 在宅での医療用麻薬使用推進モデル事業(地域単位での麻薬在庫管理システム等の開発)
- 薬物依存者の治療と社会復帰のための支援事業(依存者・家族への薬物乱用離脱支援)

国立高度専門医療研究センターを中心とした 在宅医療推進のための研究事業

要望額 16億円

■背景

終末期ケアも含む生活の質を重視した医療として、在宅医療のニーズは高まっており、多岐にわたる疾患に即した医療体制整備のあり方を提示するとともに、在宅療養を含む医療・介護サービスのコストや質などについて、さらなるデータ収集が必要。

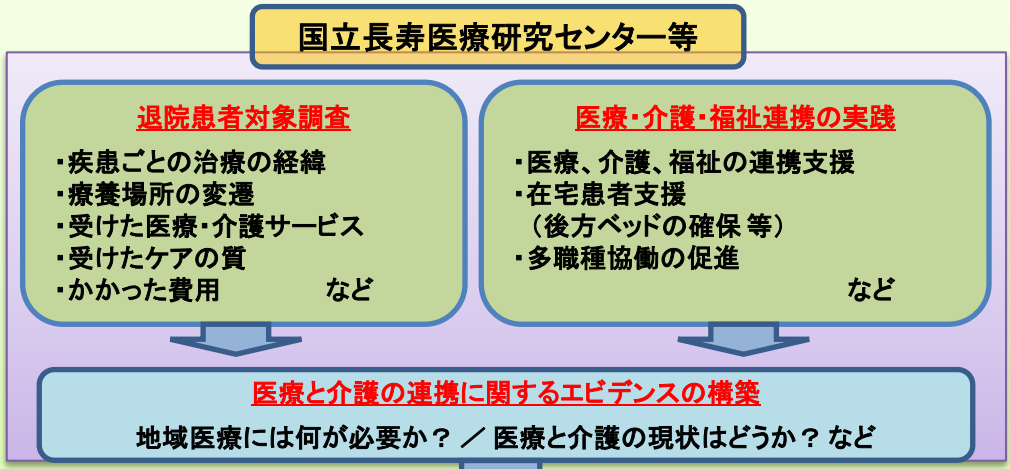
■事業内容

- 国立高度専門医療研究センターにおいて、各疾患の特性に応じた在宅医療等の医療提供体制の在り方を含めた研究を実施する。
 - ・在宅医療の対象となる患者や疾患は多岐にわたることから、各疾患について豊富な症例数を有する国立高度専門医療研究センターが、それぞれの特性に応じた在宅医療や終末期医療システム等について研究を実施する。
- 国立長寿医療研究センターと地域の医療機関が連携し、医療と介護の連携に関するエビデンスを構築する。
 - ・国立長寿医療研究センター等の入院患者の転帰を追跡する研究により、医療や介護サービスのコストや質（疾患毎の治療の経緯、療養場所の変遷、受けた医療・介護サービス、受けたケアの質、必要な費用）等について検証し、政策立案に資するエビデンスを構築する。
 - ・地域に根差した医療機関が、在宅医療を含めた地域における「医療・介護・福祉の連携」を模索し、問題点などを分析することで、医療・介護・福祉の連携について、あるべき姿を検証する。
- 国立長寿医療研究センターにおいて、在宅医療を支援するための先端機器の開発や、臨床応用を行うための基盤を整備する。
 - ・高齢者の長寿を支えるため、着用型移動介助ロボット、コミュニケーション介助ロボット、見守りロボットなど、移動補助や視覚、認知機能を支援する先端機器の開発や臨床応用のための基盤整備を行う。

(事業イメージ)

先端機器の開発や、臨床応用を行うための基盤整備
着用型移動介助ロボットなどの開発
アルツハイマー病等の先制医療薬による革新的な予防法の確立

各NCの特性に応じた在宅医療等の医療提供体制の在り方を研究
国立がん研究センター：がん患者
国立循環器病研究センター：補助人工心臓装着患者
国立精神・神経医療研究センター：神経難病患者
国立成育医療研究センター：超重症児
国立長寿医療研究センター：認知症等



政策立案・普及啓発へ